

西部太平洋海域における宝石珊瑚漁業管理計画

(西部太平洋漁業管理委員会, 1979年9月)

昭和 57 年 10 月

全日本珊瑚漁業協同組合

事務所 高知市薊野 1 0 9 1 - 1
〒780 TEL.0888-45-5115

東京事務所 東京都中央区築地4丁目3-4
第2アワヤビル6階
〒104 TEL.03-543-6526

は し が き

この資料は、在日アメリカ大使館の漁業官、Robert T. B. Iversen 氏の好意により入手したアメリカ西部太平洋漁業管理委員会作成の「西部太平洋海域における宝石珊瑚漁業管理計画」を訳したものである。

氏がこの管理計画を貸与されたのは、わが国の宝石珊瑚漁業も、アメリカの制度を参考として秩序ある生産体制を整備すべきであり、またそうなれば、われわれが開発して現在は操業出来なくなっているアメリカ 200 海里水域内の漁場についても、アメリカの漁業管理計画に基づく外国漁業への割当て (TALFF) という形で操業が再び可能となるであろうというのがその趣旨であった。

この管理計画に述べられている宝石珊瑚の最大持続生産量 (MSY)、最適生産量 (OY) の計算は、われわれにとっても始めてみるものであり、またこれに基づいて、われわれの主漁場である中部太平洋の「ミルウォーキー礁、キンメイ海山」の宝石珊瑚の最大持続生産量 (MSY) を試算してみると、年間 15,000 貫乃至 30,000 貫という一応の数字が出てきて極めて興味深い。この資料に述べられている内容は、貴重な大陸棚資源である宝石珊瑚を管理しながら長く利用してゆくりえにも、また伝統あるわが宝石珊瑚漁業の今後のあり方を考えてゆくりえにも、極めて示唆に富むものとなっている。

この資料が、宝石珊瑚とその漁業に関心ある方々の参考になれば幸いである。

昭和 57 年 10 月

全日本珊瑚漁業協同組合

理事組合長 川内 勝弘

西部太平洋における宝石珊瑚の漁業管理計画

西部太平洋区漁業管理委員会

ハワイ・ホノルル

1979年9月

目 次

実行概要	1
I 緒言	4
II 珊瑚漁業の概要	6
A. 資源	6
B. 開発の歴史	10
C. 1. 漁船と漁具	13
C. 2. 漁具の操作と効果の評価	14
D. 1. 宝石珊瑚産業の世界経済	16
D. 2. 国内の商業的漁獲	18
D. 3. 国内の商業的加工	20
E. 雇用	20
F. 州政府，中央政府の税収入及び複合効果（略）	
G. 管轄権（略）	
III 生物学	22
A. 生活史	22
B. 分布及び資源量並びに生息地	23
C. 成長率及び死亡係数	26
D. 再生産及び新規加入	27
E. 新規加入当り生物量	28

F.	新規加入当り生産量	28
G.	持続生産量 (SY) 及び最大持続生産量 (MSY)	30
IV	管理	34
A.	調査と管理の歴史	34
B.1.	管理の目的と原理	35
B.2.	管理を行う特定の目的	37
C.	最適生産量 (OY)	37
D.	国内の漁獲能力, 予想漁獲水準及び総外国漁獲枠 (TALFF)	40
E.	国内の加工能力, 予想加工水準	43
F.	各種管理方法, 勧告及び原理 (略)	
G.	実施 (略)	
H.	行政経費 (略)	
I.	既存の法律との関係 (略)	
J.	本計画に対する委員会の見直しと訂正 (略)	
K.	将来の調査の必要性 (略)	
L.	開発漁場管理のための種々の方法 (略)	
V	環境に対する影響 (略)	
VI	参考文献 (略)	
VII	語い (略)	
VIII	付録 (略)	

表

第 I 表	西部太平洋における現在の及び潜在的宝石珊瑚	8
第 II 表	Makapuu 床のピンク・ゴールド珊瑚の年間漁獲	12
第 III 表	二つの珊瑚漁法の利点と不利な点	17

第Ⅳ表	ハワイで漁獲されたピンク・ゴールド原木珊瑚の水揚推定 価格, 1975-1977	19
第Ⅴ表	磨いた末セット宝石珊瑚のハワイへの輸入額 国別・年別, 1973-1976	21
第Ⅵ表	ハワイにおける各種宝石珊瑚の垂直分布	24
第Ⅶ表	Makanuu床における宝石珊瑚のMSYの推定値	33

図

第1図～第5図	アメリカ漁業保存水域における 宝石珊瑚漁場等	44 ～ 48
第6図～第7図	台湾の宝石珊瑚漁獲等	49
第9図	潜水艇 Star II	50
第10図	曳網と潜水艇により漁獲された珊瑚の比較	51
第11図～第19図	宝石珊瑚のMSY等	52 ～ 60